



受賞式に出席された皆様（左から星野、岸本、常松、高橋、嘉本、景山の各氏）

その他、「島根原子力発電所一号機の廃止措置（廃炉）計画の認可」について、安全な作業工程を進めることを前提に同意しました。その他、「島根原子力発電所一号機の廃止措置（廃炉）計画の認可」について、安全な作業工程を進めることを前提に同意ください。

平成二十九年雲南市議会の六月定例会が九日から一十三日までの日程で開催されました。開会にあたり速水市長の施政方針演説の中で春の叙勲の披露がありました。続いて、大東町の「赤川ほたる保存会」が環境大臣表彰、加茂図書館（児童へ読み聞かせを行っているラ・ブックの皆様と図書館長、左写真）が文部科学大臣表彰を受けたとの紹介がありました。皆様の永年のご努力に敬意を表します。

市議会六月定例会

議会 瑞 風

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 838
電兼 FAX 49-6373



今回の受賞に併せ、加茂まちづくり協議会から加茂図書館に対し、昨年度の収益金の一部が図書購入費用として贈られました。

定例会では補正予算（下表）の審議が行われたほか、農業委員会委員十九人の任命を全会一致で同意決議しました。

また、健康づくり拠点整備事業

事業名	所管	金額
①健康づくり拠点開設準備事業	健康づくり政策課	4,524
②畜産酪収益力強化農補助金	林業畜産課	61,276
③高速道路整備関連事業	都市計画課	60,485

主な6月補正
単位:千円
①加茂B&G海洋センター開設拠点に展開される運動プログラムの構築
②畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業施設整備事業補助金。
畜産クラスターを活用し収益力・生産基盤の強化を行う
③加茂バスストップ付近に設置予定のスマートインターチェンジへのアクセス
道路の測量設計



市役所前を通過して吉田町方面に向かう瑞風バス（6月 22 日、午前 9 時ごろ）

瑞風、雲南市、デビュ－

六月十七日からJR西日本の豪華寝台列車「瑞風」の運行が始まりました。瑞風には五つのコースが設定されており、雲南市に立ち寄るのは「山陽山陰周遊二泊三日」のコースです。

雲南市への立ち寄りは木曜日となっています（運行のない週もあります）。

雲南市内はバスによる周遊であり、乗客が買い物をする機会や施設への入場も限られています。従って、直接の経済効果は多く無さそうです。しかし、市内に残されている日本の原風景、そして市民の皆様とのふれあい、おもてなしに感動してもらおることは十分できます。再び雲南市を訪れてみたい、という「目に見えない経済効果」に期待したいと思います。

議会のあり方を考える

高知県の大川村では議員のなり手が不足し、民意の決定機関を議会ではなく住民総会方式への変更を検討し始めたとの報道があります。大川村は人口が約四百名の小さな村で、雲南市の約百分の一と小さな自治体です。規模は違うものの議員のなり手不足の問題では雲南市も同様です。昨年の市長及び市会議員の選挙も結果的には無投票になつたことで、議員定数のあり方を考え直そうとの機運も出てきているところです。

一般的に言われることとして、議員定数を減らして一人当たりの議員報酬を引き上げ、（金銭的に）魅力ある職業にしていくという考え方です。そうすることで立候補者を増やし、選挙の洗礼を受ける仕組みを確保することで議会制民主主義を守つていこうとするものです。



フェースブックしてます。
お気軽にアクセスください。



そこで、議員定数以外に議会のあり方についても選択肢を広げて考えてみたいと思います。議会に与えられた使命を果たし議会活動が活性化できれば幸いです。

中林たかしは、六月議会で①危機管理について、②林業の育成策について、の二点を一問一答方式で質問しました。

危機管理について

(1)議員定数の考え方として（
員報酬全体の総額を現行通り
①議員定数を減らす
②議員定数を増やす

(2)議会の開催日程について
①平日の夕方・夜に開催
②土日の日中に開催
③土日の夕方・夜に開催

(3)前項(1)と(2)のミックス

(1)の①は前述したとおり一般的に言わ
れて いる改定案 で あり、 また、 技術的 に 変
更し やすい 解決方法 と 思わ れます。 た だ、
議員 数 が 減る こと で 幅広く 市民 の 声 を 取
り上 げる と い う 点 で は、 開か れた 議会 に 逆
行する かも しれ ま せん。 (1)の②は、 なり 手
不 足 の 現状 で は 意味 が 薄い で しょ う。

一方(2)の①②③は、利点としては、
染みが少ない方式ですが、①のようないやり
方はヨーロッパでは導入実績があります。
平日の夕方・夜に開催時間を変更することで、
日中仕事をしている女性が参加しやす
くなつたとのことです。

単なる(1)の(2)では意味がないものの(2)の①、②、③を組み合わせれば意味を持つようになるかもしれません。また、(1)の①と組み合わせることも選択肢の一つとなるでしょう。

ただ、議会の開催日程の変更やそれに伴う開催日を変更するとなると、行政側のシステムを変更しなければならない問題もあります。また、(2)は立候補者の多様性に寄与することができるかもしれませんのが、現行の社会システムと順応できるかという点では全くの未知数です。

たかつさんの一般質問

所有者が管理すべきものである。所有者と連絡が取れない場合、伐採の必要性があれば親戚や自治会長の方と協議のうえ市で対応している。

答（建設部長）

判例によれば、倒木が通行人を直撃し死亡した事件で、行政が道路の管理瑕疵、當造物責任を問われ損害賠償した。危険を知らせる看板だけでは瑕疵の予見性を問われかねない。倒木の危険性のある樹木の伐採に關し、補助金の創設を提案したい。

答（建設部長）

補助金の創設は考えていない。県の説明によれば、落石事故は（道路）管理者の責任、倒木事故は所有者の責任とのことである。判例については、これから研究していく。

市内四地域で森
を行つて、る。雲

連携が欠かせない。今後あり方を伺う。

問

自伐型林業という考え方もある。また、そのネットワーク化も進められているが考え方について伺う。

問 樹業は、やり方次第で
もなり得る可能性を秘め
題の多いことも確かだ。
樹齢分布、課題について
答 (農林振興部長)

林業の育成策について

問

林業は、やり方次第で今後の産業の核ともなり得る可能性を秘めている。一方、課題の多いことも確かだ。森林資源の蓄積量、樹齢分布、課題について伺う。

答
(農林振興部長)

利用期を迎えた森林面積は、スギが7割
ヒノキは3割、松は9割となつていて。齡
級が進んでいるので、均衡のとれた齡級構
成に誘導する必要がある。集約化を推進し
循環型林業を目指していく。

利用期を迎えた森林面積は、スギが7割
ヒノキは3割、松は9割となっている。齡
級が進んでいるので、均衡のとれた齡級構
成に誘導する必要がある。集約化を推進し
循環型林業を目指していく。

問 8齢級（35～40年生）を過ぎた森林資
源が多くなっているが、認識と対策につい
て伺う。

三 門

8歳級(35~40年生)を過ぎた森林資源が多くなっているが、認識と対策について伺う。

答 (農林振興部長)

利用期を迎えた森林が多く、若齢級がない。林齢バランスが非常に悪くなつてゐる。森林資源の造成や蓄積がこれまでの施業だったが、これからは生産、循環への転換が必要と考えている。

高性能林業機械の導入が進められているが稼働率が悪い。原因として路網整備の遅れが影響しているのではないか。

高性能林業機械の導入が進められているが稼働率が悪い。原因として路網整備の遅れが影響しているのではないか。
答（農林振興部長）
路網整備の遅れが原因。施業の集約、効

